

Life Walk とは 3 月 1 日「京都いのちの日」に合わせ、宗教者も府民の一員として、自死・自殺の問題に対して積極的に関心を持ち、苦悩を抱える方に寄り添う気持ちを育むことを目的とした、いのちを想う宗教者の行進です。宗教・宗派を超えた宗教者が、それぞれの信仰に基づく服装（衣体や祭服）を着用し、メッセージを掲げながら、真宗佛光寺派本山佛光寺から浄土宗 総本山知恩院までの約3kmをねり歩きます。

ライフウォーク

LIFE WALK

2017年3月1日 水曜日
14時45分集合 ▶ 15時開式

知恩院

佛光寺

TIME & SCHEDULE

14:30	荷物・着替え（真宗佛光寺派 本山佛光寺）
14:45	集合（真宗佛光寺派 本山佛光寺）
15:00 }	開会 あいさつ トークセッション (宗教・宗派の異なる数名の宗教者の方に登壇いただく予定です) フォトアクション (メッセージを持って、みんなで写真撮影を行います)
16:00	行進出発
16:50	行進到着・閉式（浄土宗 総本山知恩院 和順会館 大広間）
17:00	解散 ※解散後、懇親会を予定（希望者のみ）

COURSE



出発地：真宗佛光寺派 本山佛光寺
(京都市下京区新開町 397)

目的地：浄土宗 総本山知恩院 和順会館 大広間
(京都市東山区林下町 400-2)

宗教者向け、参加方法のご案内

[参加ルール]

いま、まさに苦悩されている方への、慈しみの心を持ってご参加ください

宗教者として自死・自殺にまつわる苦悩を抱えた方々に寄り添う気持ちを育みたいと考えています。

それぞれの信仰に基づく服装（衣体、法衣、祭服）を着用してください

その場にふさわしいと思われる、お気に入りの格好でお越しください。

なお、所属団体からの批判など、こちらでは一切責任は負えませんので、ご了解ください。

メッセージなどを掲げて行進します

メッセージは主催者が数パターン用意しますが、ご自身で作成いただいても構いません。

また、各活動の宣伝も可能ですので、パネルやのぼり旗などありましたらご持参ください。

- ※ 当日はメディア取材の他、映像や写真にまとめて幅広く発信を予定しています。
- ※ コースやプログラムを変更する場合は、メールやFacebook などでお知らせいたします。
- ※ 着替え・荷物置きは、真宗佛光寺派 本山佛光寺を使用させていただきます。
ご希望される方は行進中にお荷物を到着地点である浄土宗 総本山知恩院 和順会館 大広間まで移動いたします。
- ※ 雨天時は、集合場所に変更はありませんが、ルートや実施方法の変更を予定しています。
簡易な雨具（100円均一のレインコート）は用意していますが、それ以上のものは各自ご持参ください。
- ※ ご参加の方はお着替えを済ませ 14時45分までに真宗佛光寺派 本山佛光寺に集合してください。

■ 参加表明 ご参加いただける方は下記メールアドレスに必要事項を明記するか、あるいは、専用の申込みフォームからご連絡ください。

参加表明必要事項

①氏名(フリガナ) ②宗教・宗派 ③メールアドレス ④電話番号 ⑤その他

参加表明・お問合せ 「京都いのちの日」宗教者プロジェクト実行委員会

【MAIL】lifewalk.kyotoinochinohi@gmail.com

前回の様子や今回の最新情報は、下記のページをご覧ください。

「LifeWalk ～いのちを想う宗教者の行進～」

【HP】https://peraichi.com/landing_pages/view/lifewalk

【Facebook】<https://www.facebook.com/events/266027157148265>



申込みフォーム

<https://goo.gl/forms/YliFKYUrj1RKA193>

※ホームページやFacebookページからも申込みフォームにアクセスできます。



昨年のようなす



代表 霍野廣由 (ツルノコウユウ)

浄土真宗本願寺派 覚圓寺

NPO 法人 京都自死・自殺相談センター 副代表

私は大学生の頃、自らの意思でいのちを終えた友人の葬儀に参列することがあり、そのことがきっかけで、自死・自殺に関わる活動をはじめました。我々宗教者は自死の苦悩を抱えた方と直接関わる可能性が高くあります。実際に宗教者からの偏った考え方により、ひどく傷つけられた方もおられます。この現状を少しでも解消するためには、どのような宗教であれ、苦悩する人に対する慈しみの眼差しを向けていることを積極的に提示していかなければならないと私は考えています。LifeWalkは、宗教者が衣体や祭服を着て市内を歩くという奇抜な企画により、社会的な注目を集め、宗教者がいのちの問題に対して積極的に活動している様子を発信していきたいと考えています。前回は自死・自殺の問題に関わる団体をはじめ、医療の現場に携わる宗教者の活動、あるいは、平和の問題に向きあい続ける宗教者の方々と出会い、それぞれ活動の分野や宗教・宗派は違えども、「いのちに向きあう」想いは共有できることを実感しました。

この取り組みを通して、宗教者に対する期待が高まる、そんな機会になればと願っています。